



Title	ヘジェン語における二つのアスペクト形式-mi bi-と-re bi-について
Author(s)	李, 林静
Citation	北方言語研究, 10, 117-134
Issue Date	2020-03-20
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/77602">http://hdl.handle.net/2115/77602</a>
Type	bulletin (article)
File Information	07_117_134.pdf



[Instructions for use](#)

## ヘジェン語における二つのアスペクト形式-mi bi-と-re bi-について<sup>1</sup>

李 林 静  
(成蹊大学)

キーワード：ヘジェン語、ツングース諸語、動詞アスペクト

### 1. はじめに

ヘジェン語は中国黒龍江省黒龍江、松花江、ウスリー江流域に居住するヘジェン族によって話されているツングース諸語の一つである。ヘジェン族の人口は5,354人(2010年の国勢調査による)であるが、ヘジェン語話者数は5人以下と推定される。話者年齢は70代以上で、全員中国語とのバイリンガルである。70代以下の人は中国語しか話せない。ヘジェンの人々は大きくキーレン(自称 *na nio, na bei*)とヘジェン(自称 *na nai*)の二つのグループに分けられ、それぞれの話す方言はキーレン方言及びヘジェン方言だとされている。本論文はキーレン方言についての記述、分析である<sup>2</sup>。

本論文は副動詞+存在動詞からなる-mi bi-、-re bi-の二つの形式とその意味、機能について記述した上で、-mi bi-、-re bi-は共起する動詞のアスペクトの性質が各々異なり、-mi bi-、-re bi-と共起するのはそれぞれ日本語<sup>3</sup>でいうところの動作動詞と変化動詞にあたることを明確にする<sup>4</sup>。さらに、変化動詞の内、変化の局面に時間的幅のある動詞は-mi bi-とも共起しうることを指摘する。

第2節ではヘジェン語の動詞構造について概観し、第3節では-mi bi-、-re bi-の意味、機能について述べ、第4節では形動詞と-mi bi-、-re bi-との対立関係について述べ、第5節では-mi bi-、-re bi-と共起する動詞のアスペクトの性質について述べ、コーパスを用いた検証を行い、第6節では全体についてまとめる。

### 2. ヘジェン語の動詞構造

ヘジェン語の動詞語幹は、屈折接辞(定動詞接辞・形動詞接辞・副動詞接辞のいずれか)

<sup>1</sup> 本研究は平成23-25年度文部科学省科研費補助金(若手研究(B))「ホジェン語の音声・映像資料による電子コーパスの構築及びそれに基づく記述研究」(研究代表者: 李 林静、課題番号: 23720213)及び平成28-31年度文部科学省科研費補助金(若手研究(B))「中国北方のツングース系危機言語ホジェン語の文法記述とドキュメンテーション」(研究代表者: 李 林静、課題番号: 16K16833)の助成による成果の一部である。

<sup>2</sup> ヘジェン語キーレン方言の音素及び音価は下記の通りである。

母音音素: /a[a], i, u, e[ə], o[ə]/

子音音素: /p, b, t, d, c[tʃ], j[dʒ], k, g, f, s, ʃ, x, m, n, ŋ, r, l, y[j], w/

<sup>3</sup> 本論文で言う「日本語」はすべて共通語を指す。

<sup>4</sup> 本論文で扱う例文は次の言語コンサルタントたちによる。括弧内に生年、出身地、自称、イニシャルを示す。故尤翠玉氏(1927年勳得利生まれ、*na nio, YCY*)、故何井山氏(1930年富錦生まれ、*na bei, HJS*)、故尤金玉氏(1935年哈魚生まれ、*na nio, YJY*)、故付興珍氏(1941年八岔生まれ、*na nio, FXZ*)、何淑珍氏(1937年富錦生まれ、*na bei, HSZ*)、尤文蘭氏(1946年八岔生まれ、*na nio, YWL*)。出典は次のように示す。例: 200109HJS\_S1は2001年9月HJS(何井山)氏から得たデータであることを示す。S1はSource1の意で、Sourceについては本論文末参照。

を一般にともなう<sup>5</sup>。動詞語幹は語根単独、または語根がヴォイスやアスペクトを表す派生接辞をともなって作られる（これら派生接辞は義務的要素ではない）。形動詞接辞、一部の副動詞接辞の後には、主語の人称・数を標示する接尾辞が付加される。これらの人称接尾辞は所有を表す人称接尾辞と同一パラダイムを有す。以下表 1 に動詞構造の概要を示し、表 2 に人称接尾辞のパラダイムを示し、表 3 に動詞の屈折形式を示す（李(2014a)、李他(2018: 10)も参照されたい）。

表 1 ヘジェン語の動詞構造（括弧で括った要素は必須ではない）

動詞語幹-			-屈折形式		
動詞語根-	(-派生-)		-屈折	-否定接辞-	-人称接尾辞
	-アスペクト等-	-ヴォイス等-			
	-REPET-他	-CUAS-	-定動詞	/	/
		-RCP-	-形動詞-	-NEG-	/
-DIR-		-副動詞	/	条件副動詞のみに付加	
	-IMPRS-他				

表 2 人称接尾辞のパラダイム

述語・所有者人称	単数	複数
1 人称	-yi	-wu
2 人称	-si	-su
3 人称	-ni	-ti

表 3 ヘジェン語の動詞屈折形式

定動詞	直説法	非過去	-re/-ren(3 人称単数、3 人称複数) (-mi 1 人称単数)
		過去	/
	命令法		-∅ / -ru
	勧誘法		-mai
	禁止法		eji...-re
形動詞	肯定	非過去	-yi-人称接尾辞
		過去	-xe- / -xo- / -xi-人称接尾辞
	否定	非過去	-je-人称接尾辞
		過去	-jci-人称接尾辞

<sup>5</sup> 動詞語幹が屈折接辞を伴わない場合、2 人称への命令を表す。

副動詞	条件 (～すれば)	-ki-人称接尾辞
	同時 (～して、～しながら)	-mi
	先行 (～してから)	-re / -ru / -ro

定動詞直説法は3人称かつ非過去の場合のみ -re/ -ren<sup>6</sup>が用いられ<sup>7</sup>、もっぱら主節述語として機能する。3人称非過去以外の人称・数及び時制の標示はもっぱら形動詞 (-yi-, -xe-) の述語機能に頼る。

形動詞の-yi-形と-xe-形は非過去と過去の対立をなしている。-yi-形と-xe-形は3つの機能を持っており、その機能は以下の通りである。a. 述語として用いられる。b. 名詞の修飾語となる。c. それ自身が名詞となって格語尾を取る。もっとも主要な機能は述語としての機能である。定動詞が衰退し、形動詞が定動詞に取って代わる傾向がみられる。

副動詞には人称接尾辞を伴う条件副動詞-ki- (主節と従属節の主語は同主語でも異主語でも可)と人称接尾辞を伴わない同時副動詞-mi、先行副動詞-reがある (主節と-miや-reが導く従属節の主語は同主語である)。-miと-reの詳細については、3.2で述べる。

### 3. -mi bi-, -re bi-について

本節では、副動詞+存在動詞からなる-mi bi-と-re bi-の二つの形式について記述する。以下ではまず存在動詞 bi-, 副動詞-mi、-reについて記述を行ってから、-mi bi-, -re bi-の意味、機能について記述する。

#### 3.1 存在動詞 bi-について

bi-は「ある、いる」を意味する存在動詞で、定動詞直説法は bi-re/ren であり、他の動詞の定動詞直説法と同様である。形動詞形においては不規則変化をする。ヘジェン語においての唯一の不規則変化動詞である。bi-の形動詞非過去形は bi-si-人称接尾辞であり、過去形は bi-ci-人称接尾辞である。次に bi-のパラダイムを示す。

表4 存在動詞 bi-「ある、いる」の形動詞パラダイム

	1SG	2SG	3SG	1PL	2PL	3PL
非過去	bi-si-yi	bi-yi-si	bi-si-ni	bi-si-wu	bi-si-su	bi-si-ti
過去	bi-ci-yi	bi-ci-si	bi-ci-ni	bi-ci-wu	bi-ci-su	bi-ci-ti

<sup>6</sup> -re と-ren の交替条件は不明である。

<sup>7</sup> 1人称単数非過去の形式として、-mi という接辞も観察されるが、頻繁に使用する話者とまったく使用しない話者に分かれる。以下故何井山氏 (1930年生まれ、na bei, HJS) から取れた例を示す。現在存命中の話者からは観察されていない。

bi ta-le icikci-a-mi. (200109HJS\_S1)

1SG.NOM そこ-ALL 見る-DIR-IND.1SG

私がそこに行って見えます。



私は木を切っている。

- (4) sikse mini ene-yi-du-yi,  
 昨日 1SG.GEN 行く-PTCP.NPST-DAT-1SG  
 niani mo-we capci-m bi-ci-n. (200409CY\_S0)  
 3SG.NOM 木-ACC 切る-SIM いる-PTCP.NPST-3SG  
 昨日私が行ったとき、彼は木を切っていた。

### 3.3.2 -re bi-

定動詞直説法 (-re bi-re/ren) 及び形動詞非過去形 (-re bi-si-人称接尾辞) は発話時に変化の結果が残っていることを表し、過去形 (-re bi-ci-人称接尾辞) は発話時より前のある時点で、それ以前に生じた変化の結果が残っていることを表す。

- (5) bi te-re bi-si-yi. (200409CY\_S0)  
 1SG.NOM 座る-ANT いる-PTCP.NPST-1SG  
 私は座っている。

- (6) sikse mini ene-xe-du-yi,  
 昨日 1SG.GEN 行く-PTCP.NPST-DAT-1SG  
 te-re bi-ci-n. (200409CY\_S0)  
 座る-ANT いる-PTCP.PST-1SG  
 昨日私が行ったとき彼は座っていた。

以上の例から、-mi bi-は動作の継続、-re bi-は動作が行われた後の結果状態の持続を表していることが分かる。

-mi bi-に関しては、先行研究に記述がある。安(1986:53)では、「副動詞-m+助動詞 bisin となる複合形式が現在進行形を表す (筆者訳)」としている。Zhang et al.(1989)でも-mi bi-を現在進行形として扱い、次のようなテンス・アスペクト体系を提示している。

There are two tenses, present and past, and two aspects, general and progressive, in the Hezhen language. They combine to produce the four different forms of a verb. (Zhang et al.(1989:60))

表5 ヘジエン語テンス・アスペクト体系(Zhang et al.(1989:60))

	progressive		general
past	jefemi	bixe	jefexe
		bici	
present	jefemi	biyi	jefeyi
		bisi	

-mi bixe, -mi bici は過去進行を表し、過去一般を表す-xe-とアスペクトにおいて対立をなし

ており、また、-mi biyi, -mi bisi は現在進行を表し、現在一般を表す-yi-とアスペクトにおいて対立をなしていることが見て取れる。

ただし、1980年代中国で出版されている文法書(安(1986)、尤・傳(1987)、Zhang et al. (1989))において、-re bi-は言及されていない。安(2007)は安(1986)の改訂版として出版されているが、そこにも-re bi-についての記述はない。

表5は一見下記日本語のテンス・アスペクト体系とよく似ているように見える。

表6 日本語のテンス・アスペクト体系 (高橋(2005:80))

アスペクト \ テンス	完成相	継続相
非過去形	する	している
過去形	した	していた

ヘジェン語の-mi bi-, -re bi-は構造的にも、機能的にも日本語の「～テイル」に似ている。以下は日本語の例<sup>11</sup>である。

- (7) kare=ga            ki=wo            kit-te            ir-u.  
 3SG=NOM    木=ACC            切る-ADV        いる-NPST  
 彼が木を切っている。

- (8) kare=wa            suwat-te            ir-u.  
 3SG=TOP        座る-ADV        いる-NPST  
 彼は座っている。

しかし、ヘジェン語の-mi bi-, -re bi-は日本語のテイルと完全に一致するわけではない。日本語でテイルを使う表現で、これに対応する意味のヘジェン語でも必ず-mi bi-か-re bi-を使うとは限らない。代わりに動詞の形動詞形が使われることが多い。次の例(9a, 10a)を見て分かるとおり、-yi-も動作の継続や結果状態の持続を表すことができる。ただし、動作の進行或いは結果の状態をより強調したい場合に-yi-の代わりに-mi bi-と-re bi-が使われる(9b, 10b)。

- (9a) niani            muke-ji            yuke-we            xasi-yi-ni. (201808YWL\_S15)  
 3SG.NOM    水-INS            鍋-ACC            洗う-PTCP.NPST-3SG  
 彼は水で鍋を洗っている。

- (9b) yuke-we            xasi-m            bi-si-n. (201808YWL\_S15)  
 鍋-ACC        洗う-SIM        いる-PTCP.NPAST-3SG  
 彼は鍋を洗っている。

<sup>11</sup> 日本語のグロスの振り方は風間(2012)を参考にしている。

- (10a) arben eme-xe-n,  
 軍隊 来る-PTCP.PAST-3SG  
 ei muke-we maci maci tukia-yi-ti. (201308FXZ\_S9)  
 この 水-ACC 少し 少し 見張る-PTCP.NPAST-3PL  
 軍隊の人たちが来てこの洪水を少し見張っている。

- (10b) arben tukia-re bi-ren edu xoxto, en. (201308FXZ\_S9)  
 軍隊 見張る-ANT いる-IND.3 ここで 道 INTJ  
 兵士たちが見張ってる、ここで道路を、うん。

したがって、-mi bi-, -re bi-はアスペクトにおいて、-yi-, -xe-と完全に対立しているとは言いがたい。

次節では、動詞の形動詞形-yi-, -xe-が述語として用いられる場合の意味について記述してから、-yi-と-mi bi-, -re bi-のテキストにおける使用頻度について見てみたい。

#### 4. -yi-, -xe-と-mi bi-, -re bi-との対立関係について

##### 4.1 動詞の形動詞形-yi-と-xe-

形動詞形の-yi-と-xe-は述語として用いられる場合、-yi-は動作が恒常的に行われることか、動作が発話時と同時か発話時に後行することを表す。これに対し、-xe-は動作が発話時に先行するある時点で行われたことを表す。例えば：

- (11) sejin-ji ene-yi-ni. (201008HSZ\_S2)  
 車-INS 行く-PTCP.NPST-3SG  
 (娘は明日) 車で行く<sup>12</sup>。

- (12) maci giotkoli buda-we jefu-xe-yi e,  
 少し 冷たい ご飯-ACC 食べる-PTCP.PST-1SG PTCL  
  
*jiu* afine-xe-yi e. (201008HSZ\_S2)  
 就 寝る-PTCP.PST-1SG PTCL  
 私は少し冷たいご飯を食べた。それから寝た。

このほかに、日本語のテイルで表される事態（動作の継続か結果状態の持続）でもヘジェン語では-yi-形が使われる。

<sup>12</sup> 本論文の例文は会話テキストから引用することが多く、主語など会話の当事者たちが知っている情報が省略されることが多い。必要に応じ、省略された情報を（ ）でくくって補足することがある。



(13) inakin        bugdane-yi-ni. (200309YCY\_S0)

犬            走る-PTCP.NPST-3SG

犬が走っている。

(14) furgian        tergele        titi-yi-ni. (200309YCY\_S0)

赤い        服            着る-PTCP.NPST-3SG

彼は赤い服を着ている。

#### 4.2 -yi-と-mi bi-, -re bi-の使用頻度

上の例文を見て分かる通り、形動詞非過去形の-yi-は動作や変化を表す動詞において、動作が進行中であること或いは、動作が終わった後の結果状態の持続も表せる。すなわち、-yi-は動詞の持っているアスペクト性質とは無関係に付きうる。(完了した動作の場合は-xe-が付く。)しかし、上でも述べたように、動作の進行或いは結果の状態をより強調したい場合に-yi-の代わりに-mi bi-と-re bi-が使われる。14のデータを用い(本論文末のSourceを参照)、主節において、日本語のテイルに相当する事態がヘジェン語では-yi-または-mi bi-, -re bi-のどちらが使われているかについて検索した結果、表7の結果が得られた(Source1(計:83704語)、Source2-14(計:133463語)、合計:217102語)。Source1は筆者が2001年から2005年まで収集したデータを博士論文の資料編としてまとめたものである。テキストの形式は会話、民話、語りなどである。Source2-14は筆者が2010年から2018年まで収集したデータに基づき、2011年から2019年まで公表した13篇のテキストである。テキストの形式は会話、民話、語りなどである。

表7 -yi-と-mi bi-, -re bi-の使用頻度の比較

	-yi-	-mi bi-	-re bi-
例文の数	85	16	20
異なり語根の数	44	16	13

-yi-, -mi bi-, -re bi-の使われた例文の数はそれぞれ、85、16、20であり、重複した動詞語根は手作業で取り除き、異なり語根の数は44、16、13であることから、ヘジェン語のテキストにおいて、日本語のテイルに相当する事態に関して、形動詞形の-yi-の使用率が-mi bi-, -re bi-よりはるかに高いことが分かった。

-mi bi-と-re bi-は-yi-, -xe-とアスペクトにおいて対立をなしていないが、その存在を無視することはできない。

次節では-mi bi-と-re bi-と共起する動詞について整理し、それぞれと共起する動詞アスペクトの性質について考察を行う。

#### 5. -mi bi-, -re bi-と共起する動詞アスペクトの性質

-mi bi-, -re bi-と共起する動詞の例を考察した結果、-mi bi-と共起する動詞は日本語の動作動詞、-re bi-と共起する動詞は日本語の変化動詞とかなりの部分重なることがわかった。

## 5.1 動作動詞と変化動詞について

まず、日本語の動作動詞と変化動詞について、高橋(2005:81)では、次のように記述している。

ここで動作動詞というのは、継続相「している」の形式にしたばあいには、その基本的なアスペクト的意味が動作の局面をとりだして実現する動詞であり、変化動詞というのはそのばあいには、基本的なアスペクト的意味が結果の局面をとりだして実現する動詞である。たとえば、つぎの「よむ」や「ながれる」は動作動詞であり、「あく」や「おちる」は変化動詞である。動作動詞は主体の動作の側面(運動の形式)をとりだしてあらゆる動詞であって、動作後、主体の状態がどうなるかには無関心である。それに対して、変化動詞は、主体の変化の側面(運動の内容)をとりだしてあらゆる動詞であって、運動終了後、主体の状態が変わるところまでを意味の範囲におさめている。

(15) kare=wa            hon=wo        yon-de            ir-u. (動作動詞)  
3SG.NOM=TOP   本=ACC        読む-ADVF.ANT   いる-NPST  
彼は本を読んでいる。

(16) mizu=ga            nagare-te            ir-u. (動作動詞)  
水=NOM            流れる-ADVF.ANT   いる-NPST  
水が流れている。

(17) mado=ga            ai-te                ir-u. (変化動詞)  
窓=NOM            開く-ADVF.ANT     いる-NPST  
窓が開いている。

(18) gomi=ga            ochi-te            ir-u. (変化動詞)  
ゴミ=NOM            落ち-ADVF.ANT     いる-NPST  
ゴミが落ちている。

次に、日本語において一般的に動作動詞として認識される「切る」、「遊ぶ」、変化動詞と認識される「開く」、「落ちる」はヘジェン語においてどうなっているかを見てみよう。(19)は kerci-「切る」、(20)は ukci-「遊ぶ」、(21)は ixele-「開く」、(22)は tiki-「落ちる」の例である。

(19) niani            esi        surgj-we        kerci-m        bi-ren. (200409YCY\_S1)  
3SG.NOM   今        野菜-ACC        切る-SIM        いる-IND.3  
彼は今野菜を切っている。

- (20) ta-du                    ukci-m                    bi-ren. (201308YWL\_S9)  
 そこ-DAT                遊ぶ-SIM                いる-IND.3  
 彼女はそこで遊んでいる。
- (21) ti                            amge-ni                    ixele<sup>13</sup>-re                bi-ren. (201808HSZ\_S15)  
 3SG.NOM                口-3SG                開く-ANT                いる-IND.3  
 彼の口が開いている。
- (22) funku falen-du    tiki-xe-ni.                    ta-du                tiki-re                bi-ren.  
 タオル 床-DAT    落ちる-PTCP.PST-3SG    そこ-DAT    落ちる-ANT    いる-IND.3  
 ni=de                jafu-fe-n. (201808HSZ\_S15)  
 誰=CLT                取る-NEG.NPST-3SG  
 タオルが床に落ちた。そこに落ちている。だれも拾わない。

上記の例文で分かる通り、kerci-「切る」、ukci-「遊ぶ」は-mi bi-と共起し、ixele-「開く（あく）」、tiki-「落ちる」は-re bi-と共起する。(19)ではkerci-は-mi bi-と共起し、彼が野菜を切っている最中を表しており、(22)ではtiki-は-re bi-と共起し、落ちる動作が終了し、タオルが落ちた後の状態が継続していることを表している。

(23) 他の-mi bi-と共起する動作動詞（李(2006a)より）

a: 自動詞 degde-「飛ぶ」、bugdane-「走る」、xuli-「歩く」、afine-「寝る」、xaŋka-「怒る」、soŋo-「泣く」

b: 他動詞 jefu-「食べる」、omi-「飲む」、kinda-「放す」、jobgolo-「挿す」、kerci-「切る」、capci-「切る」、jigji-「燃やす、焼く」、ou-「書く」

これらの動詞は基本的に-mi bi-としか共起できない。

(24) 他の-re bi-と共起する変化動詞（李(2006a)より）

a: 自動詞 miaku-「跪く」、dudu-「横になる」、sene-「目が覚める」、dasi-「閉まる」、sei-「詰まる」、si-「塞がる」、loko-「掛かる」、muku-「冷める、消える」、cipka-「濡れる」、laxtu-「付く」、orgu-「乾く」、soxtu-「酔う」、yalu-「乗る」

b: 他動詞 jafe-「持つ」、tebule-「抱える」

<sup>13</sup> 第1節で述べた通り、キーレン方言の話者はさらに、na nio と自称するグループと na bei と自称するグループに分かれる。「開く」という動詞に関して、na nio と自称する話者の語形は nixele-、na bei と自称する話者の語形は ixele-である。加えて、名詞「口」についても、前者は aŋme、後者は amge である。

これらの動詞は基本的に-re bi-としか共起できない。

ちなみに、高橋(2005:82)は動作動詞と変化動詞が持つ局面を次のように述べ、それぞれの局面を図1のように表している。

動作動詞のあらわす動作は、(基本的には、)始発、動作、終了の3局面からなりたっていて、そのうちの動作の局面が持続過程をなす。

変化動詞のあらわす変化は、(基本的には、)変化、結果の2局面からなりたっていて、そのうちの結果の局面が持続過程をなす。

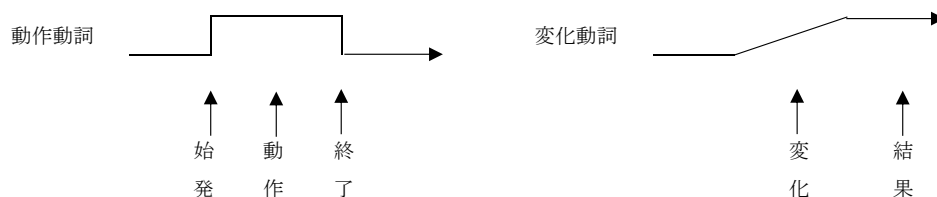


図1 日本語の動作動詞、変化動詞が持つ局面(高橋(2005:82))

これはヘジェン語にも当てはめることができる。日本語はテイルという同一の形式が、<進行>と<結果>と異なるアスペクト意味を抱え込んでいる。一方、ヘジェン語は-mi bi-と-re bi-の二つの形式を持っているため、それが動詞の持つ語彙アスペクトの性質を判断する一助となりうる。

## 5.2 -mi bi- と-re bi-の両方と共起する動詞

ヘジェン語の動詞の中には極わずかだが、-mi bi- と-re bi-の両方の形を取る動詞もある。たとえば ili-「立つ」、te-「座る」、acu-「脱ぐ」などである。ただし、言語コンサルタントに確認すると、ili-「立つ」という動詞の場合、ili-m bi-が「立ちつつある、立とうとする」ことを意味するのに対し、ili-re bi-が「立った状態にいる」ことを意味するという。そして、acu-「脱ぐ」という動詞の場合、acu-m bi-が「(服を)脱ぎつつある、脱ごうとする」ことを意味するのに対し、acu-re bi-が「(服を)脱いだ状態にいる」ことを意味するという。これはまさに V-mi bi-はある動作の継続を表しているのに対し、V-re bi-はある動作が完了してしまった後の結果状態の持続を表していることを裏付ける例である。この違いは、-mi が、V1 は V2 の様態であり、同時に行われていることを示し、-re が、V1 は V2 に先行することを示すという、両者の本来の性質の違いによるものではないかと思われる(3.2を参照のこと)。

しかし、すべての動詞が-mi bi-、-re bi-と両方共起できるわけではない。両方と共起できる動詞を観察すると、変化動詞であることが分かる。動作動詞(jefu-「食べる」、xuli-「歩く」など)は-re bi-との共起は容認されない。また、すべての変化動詞は-mi bi-、-re bi-と両方共起できるわけでもない。話者の聞き取り調査において、上記の ili-「立つ」、te-「座る」、acu-「脱ぐ」などは-mi bi-、-re bi-両方との共起が認められたが(25a, b)、ebdu-「破れる」、odi-「終わる」などに関しては、-mi bi-との共起が認められず、-re bi-との共起のみが認められた(26a, b)。同じ変化動詞である ili-「立つ」と ebdu-「破れる」の区別は次のように考え

られる。ili-「立つ」は立っていない状態から立っている状態までの間の変化が起こる過程に時間的な幅が認められ、-mi bi-と共起し、変化が起こりつつある（立ちつつある）と表現できる。それに対し、ebdu-「破れる」は破れていない状態から破れている状態までの間の過程は時間的に極めて短く、その過程にはそもそも焦点が当てられなく、-mi bi-と共起し、変化が起こりつつある（破れつつある）と表現できない。要するに、変化動詞の内、動詞によっては、変化の局面に時間的な幅を持つ動詞と持たない動詞がある<sup>14</sup>と思われる。

(25a) niani ta-du ili-re bi-ren. (200308YCY\_S1)  
 3SG.NOM そこ-DAT 立つ-ANT いる-IND.3  
 彼はそこに立っている。

(25b) niani ili-mi bi-ren. (200308HJS\_S1)  
 3SG.NOM 立つ-SIM いる-IND.3  
 彼は立ちつつある（立とうとしている）。

(26a) ei xite nale-ni ebdu-re bi-ren. (201808HSZ\_S15)  
 この 子供 手-3SG 破れる-ANT いる-IND.3  
 この子は手が破れている（けがしている）。

(26b) \*ei xite nale-ni ebdu-mi bi-ren. (201808HSZ\_S15)  
 この 子供 手-3SG 破れる-SIM いる-IND.3  
 この子は手が破れつつある（けがしつつある）。

したがって、図1を参考にし、動作動詞、変化動詞が持つ局面及びヘジェン語の-mi bi-、-re bi-との共起関係を図2のように示すことができる。

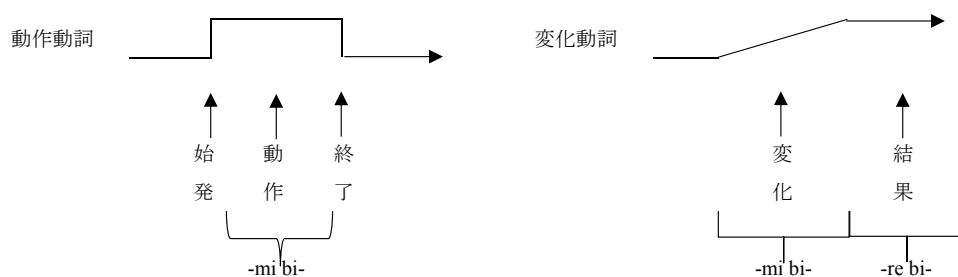


図2 動作動詞、変化動詞が-mi bi-、-re bi-との共起関係（高橋(2005:82)に加筆）

動作動詞の開始と終了の局面は一瞬で終わり、動作の局面は時間的な幅を持つ。動作動詞

<sup>14</sup> ただし、(25b)、(26a)、(26b)は話者の聞き取り調査から得たものであり、自然発話のテキストから観察されたものでない。上記の論点を支持するためには、さらなる動詞の例を収集する必要がある。

は-mi bi-と共起し、動作が進行中であることを表すことができる。しかし、その動作によって、主体の状態は特に変化せず、結果が持続することもないため、-re bi-と共起することはないと考えられる。

変化動詞の内、変化の局面（過程）に時間的な幅のある動詞（ili-「立つ」、te-「座る」、acu-「脱ぐ」など）に関しては、-mi bi-と共起する場合には、変化の過程が進行中であることを表すことができ、-re bi-と共起する場合には、結果状態が持続していることを表すことができる。変化の局面（過程）に時間が幅の短い、あるいはほぼない動詞（ebdu-「破れる」、odi-「終わる」など）に関しては、-mi bi-との共起はできず、-re bi-とのみ共起でき、変化の結果状態が持続していることを表すことができる。

### 5.3 コーパスを用いた検証

この節では、-mi bi- -re bi-と共起する動詞例をS1-S15で検索した結果を示し（表8）、現時点ではまだ解釈できない例についても指摘する。

表8 -mi bi-, -re bi-と共起する動詞のリスト

-mi bi-と 共起する 動詞	意味	述 べ 語 数	出典	-re bi-と 共起する 動詞	意味	述 べ 語 数	出典
arci-	待つ	3	S1-14, S15_HSZ,S15_YWL	dudu-	横になる	4	S1-14
tai-	燃える	2	S1-14, S15_HSZ	xerke-	縛る	3	S1-14
ulsi-	縫う	2	S1-14,S15_HSZ	aoli-	腫れる	2	S15_YWL, S15_HSZ
ne-	する	2	S15_YWL, S15_HSZ	loko-	かかる	2	S15_YWL, S15_HSZ
comcu-	しゃがむ	1	S1-14	korne-,kui ne-	（目が）閉じ る	2	S15_YWL,S15_ HSZ
dengele-	震える	1	S1-14	xadile-	背負う	2	S1-14
eme-	来る	1	S1-14	dasi-	閉まる被る	2	S1- 14,S15_YWL
iktene <sup>15</sup> -	笑う	1	S1-14	xio-	裏返す	2	S15_YWL, S15_HSZ
soromaci-	戦う	1	S1-14	abi-	詰まる	1	S1-14
tigde-	雨が降る	1	S1-14	odi-	終わる	1	S1-14
ukci-	遊ぶ	1	S1-14	te-	座る	1	S1-14

<sup>15</sup> na nio と自称する話者の語形は niktene~nixtene-, na bei と自称する話者の語形は iktene~ixtene-である。

ici-	見る	1	S1-14	tiki-	落ちる	1	S15_HSZ
jefu-	食べる	1	S1-14	goni-	考える、思う	1	S1-14
kerci-	切る	1	S1-14	meyixele-	背負う	1	S15_HSZ
<b>titi-</b>	履く	1	S1-14	tukia-	見張る	1	S1-14
<b>uji-</b>	飼う	1	S1-14	<b>uji-</b>	飼う	1	S1-14
ulxi-	できる	1	S1-14	tai-	燃える	1	S15_YWL
isine-	汗をかく	1	S15_HSZ	tiki-	倒れる	1	S15_HSZ
furki-	吹く	1	S15_HSZ	<b>ulsi-</b>	縫う	1	S1-14
mosi-	揉む	1	S15_HSZ	mira-	平らになる	1	S1-14
ene-	行く	1	S15_YWL	ixele-	開く	1	S15_HSZ
dasi-	覆う	1	S15_YWL	tebure-	抱く	1	S15_HSZ
gerte-	探す	1	S15_YWL	ebdu-	破れる	1	S15_HSZ
jayi-	隠す	1	S15_YWL	tura-	(口が)開く	1	S15_YWL
laxsi-	頭を下げる	1	S15_YWL	jaji-	背負う	1	S15_YWL
mabule-	拭く	1	S15_YWL	nede-	置く	1	S15_YWL
ufkai-	掻く	1	S15_YWL	sekti-	敷く	1	S1-14
xasi-	擦って洗う	1	S15_YWL	<b>titi-</b>	着る	1	S15_HSZ
xoi-	裂く	1	S15_YWL				
nijile-	揉む	1	S15_YWL				

大まかに、-mi bi-と共起する動詞は日本語の動作動詞、-re bi-と共起する動詞は日本語の変化動詞とかさなるが、中には両方と共起し得て、しかもその区別がはっきりしない動詞もある。uji-「飼う」という動詞である<sup>16</sup>。

(28) juan fulun uji-m bi-ren. (201008HSZ\_S2)

十 あまり 飼う-SIM いる-IND.3

(上の娘が) 十何匹 (鶏を) 飼っている。

(29) malxoŋ anci jiu ifkuli tioko orin=ke.

たくさん ない 就 小さい 鶏 二十=CLT

neu-du-ni uji-re bi-ren men-du uji-fe-ni. (201008HSZ\_S2)

妹-DAT-3SG 飼う-ANT いる-IND.3 自分-DAT 飼う-NEG.NPST-3SG

<sup>16</sup> もう一例 ulsi-「縫う」があるが、  
 ulsi-m bi-ci-n. (200308YCY\_S1)  
 縫う-SIM be-PTCP.PST-3SG 「(かつて女の子たちは) 自分で (婚礼に切る晴れ着) を縫っていた。」  
 injme ta-du ulsi-re bi-ren. (200308YWL\_S1)  
 針 そこ-DAT 縫う-ANT いる-IND.3 「針がそこに縫ってある。」  
 と動作の継続と結果状態の持続の意味的な区別がつく。

たくさんはいない。小さい鶏、二十羽ぐらい。妹のために飼ってる。自分のためには飼っていない。

上記2例は同一話者による同一文脈の例である。極わずかだが、ヘジェン語の動詞の中には-mi bi-と-re bi-の両方と共起し得て、動作動詞と変化動詞のどちらにも解釈できる動詞がある。

また、次の titi-「履く、着る」のような-mi bi- (30)、-re bi- (31)の両方と共起でき、どちらも titi-は変化動詞として解釈できるように考えられる。

- (30) tikibisi            chuande   wula      ma,  
 そのような    穿的      乌拉      吗  
 unta                            titi-m            bi-si-n=ti                            a. (200308YCY\_S1)  
 ウンター (魚皮の靴) 履く-SIM    いる-PTCP.NPST-3SG=CLT Q  
 彼はウンター (魚皮の靴) を履いているんじゃない？

- (31) ei    xite    furgian    texele-we-ni            titi-re            bi-si-ni. (201808HSZ\_S15)  
 この 子供 赤い    服-ACC-3SG            着る-ANT            いる-PTCP.NPST-3SG  
 この子は赤い服を着ている。

ヘジェン語で「靴を履く」、「服を着る」と言う際に、動詞は同じ語形の titi-を用いる。基本的に、titi-mi bi-は「履いている (着ている) 最中」であり、titi-re bi-「履いている (着ている) 状態」であることを表すが、上の例(30)は話者が魚皮の靴を着用している人の写真を見て、「この人は魚皮の靴を履いているんじゃない？」と発話しているという文脈から、ここでは titi-mi bi-「履いている最中」と解釈することは難しい。「靴を履く」を一時的な動作ではなく、習慣のようにとらえられるようにも考えられるが、このような分析を支持するためには、同じような状況を-mi bi-、-re bi-の両方で表せるより多くの用例の収集が期待される。

## 6. まとめ

以上、日本語のテイルについての研究<sup>17</sup>を参考にしながら、ヘジェン語の類似形式-mi bi-と-re bi-について考察してきた。

以上を次のようにまとめたい。

- (A) 基本的にヘジェン語の-mi bi-は動作の継続を表し、-re bi-は動作が行われた結果状態の持続を表す。  
 (B) -mi bi-、-re bi-と共起する動詞の、語彙的アスペクト性質は異なっており、-mi bi-と共起

<sup>17</sup> 本論文では高橋(2005)の動作動詞・変化動詞の枠組みを主に参考にしたが、査読者から金田一(1950)では本論文で問題となっている変化の局面の時間的幅の有無が考慮されているため、記述の枠組みとしてより相応しいとの示唆を受けた。筆者もこのような意見に賛同している。今後用例を収集するとともに、ヘジェン語の動詞分類により相応しい枠組みを探っていきたい。



する動詞は動作動詞、-re bi-と共起する動詞は変化動詞と重なる部分が多い。変化動詞の内、変化の局面において時間的な幅を持つ動詞に関しては、-mi bi-と共起し、変化が起こりつつあると表現することも容認される。変化の局面において時間的な幅を持たない動詞に関しては、-mi bi-と共起し、変化が起こりつつあると表現することはできない（図2）。

(C) -mi bi-と-re bi-との意味の区別は、根本的に、-mi が、V1 は V2 の様態であり、同時に行われていることを示し、-re が、V1 は V2 に先行することを示すという、両者の本来の性質の違いによるものである（3.2 参照）。

(D) 形動詞の-yi-形も動作の継続や動作が行われた結果状態の持続を表すことができるが、より動作の継続または結果状態の持続を強調したいときに、-mi bi-または-re bi-が使われる。-yi-と-mi bi-、-re bi-の交替条件については今後の課題とする。

## 謝辞

長年調査に協力してくださった話者の方々に深く感謝を申し上げます。二人の査読者の方から数多くの適確なご指摘と有益なアドバイスをいただきました。心より感謝申し上げます。

## 略語一覧

-: suffix boundary	INS: instrumental
=: clitic boundary	ITER: iterative
1, 2, 3: 1st, 2nd, 3rd person	NEG: negative
ACC: accusative	NOM: nominative
ADV: adverbial verb form	NPST: non-past
ALL: allative	PL: plural
ANT: anterior	PST: past
CLT: clitic	PTCL: particle
CUAS: cause	PTCP: participle
DAT: dative	Q: interrogative marker
DIR: directional	RCP: reciprocal
FNT: finite	REPET: repetitive
GEN: genitive	SG: singular
IMPRS: impersonal	SIM: simultaneous
IND: indicative	TOP: topic

## 参考文献

- 風間伸次郎(2012)「アルタイ型言語における準動詞と言いさしについて」『北方言語研究』2: 139-162.
- 金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」『言語研究』15: 48-63.
- 高橋太郎・金子尚一・金田章宏・齋美智子・鈴木泰・須田淳一・松本泰丈(2005)『日本語の文法』ひつじ書房.

李林静(2006a)「ホジェン語の動詞構造」(千葉大学大学院社会文化科学研究科 博士論文 未刊行).

(2014a)「ホジェン語の動詞屈折形式とその統語機能」『北方言語研究』4: 111-126.

李林静・山越康裕・兪倉徳和編著(2018)『中国北方危機言語のドキュメンテーション』三元社.

安俊(1986)『赫哲語簡志』民族出版社.

安俊(2009)「赫哲語簡志」『中国少数民族語言簡志叢書(修訂本卷陸)』929-989. 民族出版社

尤志賢・傅万金(1987)『簡明赫哲語漢語対照読本』黒龍江民族出版社.

Zhang Yanchang [ & ] Zhang Xi [ & ] Dai Shuyan 1989. *The Hezhen Language*. Jilin University Press.

#### 資料 (Source)

- S0 李林静(2006a)「ホジェン語の動詞構造」(千葉大学大学院社会文化科学研究科 博士論文 未刊行).
- S1 \_\_\_\_\_(2006b)「ホジェン語の動詞構造(資料編)」(千葉大学大学院社会文化科学研究科 博士論文 未刊行).
- S2 \_\_\_\_\_(2011a)「ホジェン語の会話テキスト(1)」『北方言語研究』1: 197-216.
- S3 \_\_\_\_\_(2011b)「ホジェン語民話テキスト 蛇兄妹」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』13: 131-153.
- S4 \_\_\_\_\_(2012a)「ホジェン語インタビューテキスト(1)ーお産についてー」『北方言語研究』2: 257-294.
- S5 \_\_\_\_\_(2012b)「ホジェン語インタビューテキスト(2)ーお産についてー」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』14: 307-340.
- S6 \_\_\_\_\_(2013)「ホジェン語会話テキスト(2)」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』15: 257-294.
- S7 \_\_\_\_\_(2014b)「ホジェン語会話テキスト(3)ー洪水についてー」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』16: 267-326.
- S8 \_\_\_\_\_(2015a)「ホジェン語会話テキスト(4)」『北方人文研究』8: 77-100.
- S9 \_\_\_\_\_(2015b)「ホジェン語会話テキスト(5)」『北方言語研究』5: 227-260.
- S10 \_\_\_\_\_(2015)「ホジェン語の語りテキスト(1)ー尤文蘭口述 私の生い立ちー」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』17: 203-220.
- S11 \_\_\_\_\_(2016)「ホジェン語会話テキスト(5)」『北方言語研究』6: 131-152.
- S12 \_\_\_\_\_(2017)「ヘジェン語インタビューテキスト(3)ーお産について(3)」『ひろがる北方言語の地平線 中川裕先生還暦記念論文集』139-151, サッポロ堂書店.
- S13 \_\_\_\_\_(2018)「ヘジェン語テキスト(16)ー何淑珍氏、尤文蘭氏による会話 2015年夏の出来事(1)ー」『北方言語研究』8: 147-177.
- S14 \_\_\_\_\_(2019)「ヘジェン語テキスト(17)ー民話 意地悪な兄嫁ー」『北方言語研究』9: 145-160.
- S15 2018年8月、筆者による-mi bi-, -re bi-についての例文調査(話者 YWL, HSZ)(未刊行)

## Two Aspect Forms *-mi bi-* and *-re bi-* in Hezhen

Linjing LI  
(Seikei University)

This paper describes the meaning and function of Hezhen aspect forms *-mi bi-* and *-re bi-*, which are two forms composed of “converb + existential verb”.

The conclusion is as follows.

A. Basically, the Hezhen form *-mi bi-* expresses the continuation of an action, while *-re bi-* expresses the resultant state of an action.

B. The verbs that co-occur with *-mi bi-* and *-re bi-* differ in their lexical aspect, with the former often overlapping with action verbs and the latter often overlapping with verbs of change. For verbs of change whose change phase spans some length of time, *-mi bi-* can be used to indicate that a process of change is in progress. For verbs of change whose change phase does not span a length of time, *-mi bi-* cannot be used to indicate that the change is in progress.

C. The fundamental semantic distinction between *-mi bi-* and *-re bi-* stems from the fundamental distinction between *-mi* and *-re*. That is, with *-mi*, V1 is the context for V2, and both actions happen simultaneously, while with *-re*, V1 precedes V2.

D. The participle form *-yi-* can be used to express the continuation of an action or the persistence of an action’s resulting state; however, when speakers want to emphasize these things, they use *-mi bi-* and *-re bi-*.

(り・りんせい lilingjing@law.seikei.ac.jp)